

南昌だより

2018
No. 31

2018年1月1日発行

とすかた保育園 本誌P10



ケアセンター南昌 本誌P11



敬愛荘 本誌P15



博愛荘 本誌P10



悠和荘 本誌P13



恒和荘 本誌P14



矢巾町地域包括支援センター 本誌P10



志和荘 本誌P12

医療法人社団 帰厚堂

【基本理念】

「愛と誠の精神」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される医療を提供するために
全ての専門職種による
チーム医療に万全を期します

社会福祉法人 敬愛会

【基本理念】

「地域と共に生き 地域と共に歩む」

私たちは、
すべての人に感謝の気持ちをもって
奉仕いたします
また、
信頼される福祉サービスを提供するために
全ての専門職種による
チームケアに万全を期し
その人らしい生活が育まれるよう
支援します

2018
No. 31
Contents

- 2P…… 巻頭言
- 3P…… 職場紹介
…… スタッフ紹介
- 4P~5P… リハビリテーション その2
- 5P…… 若園荘

- 6P…… 看護学生の臨地実習場としての責任
- 7P…… 学会発表報告
- 8P~9P… 満足度調査
- 10P~11P… ケアセンター南昌
- 12P…… 志和荘

- 13P…… 悠和荘
- 14P…… 恒和荘
- 15P…… 敬愛荘
- 16P…… 診療案内



医療法人社団 帰厚堂
<http://www.kikodo.or.jp/>

社会福祉法人 敬愛会
<http://www.shiwasou.jp/>



高齢者のインフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチン

介護老人保健施設「敬愛荘」 施設長 柏葉 光利



今期のインフルエンザワクチンは供給不足のため、不安を覚えた方もおありと思います。

私どもの老健施設でもインフルエンザは脅威であり、その対策としてのワクチン接種は重要です。また、肺炎球菌ワクチンも高齢者にとっては重要なワクチンですので、それらの話をしたいと思います。

平成28年度のインフルエンザにかかった方の年齢別の解析では、流行の主体はA香港（亜）型で高齢者では10%、B型は15%を占めており、例年より多かったです。近年、B型でも高齢者の比率が増加してきており、A香港型も毎シーズン高齢者の比率が高くなっていることに注意が必要です。

そして、感染症と大いに関係のある生体を防衛する免疫は年齢と共にその機能は低下していきますし、さらに免疫機能を下げる原因の一つとして感染症があります。そういうことから高齢者の場合は一旦インフルエンザにかかると重くなり易く肺炎を合併して死亡する確率も高くなります。特にA香港型が目立ってその傾向があるようですので一層の注意が必要です。

そのためにもワクチン接種は重要であり、帰宅後のうがいや手洗い、温度や湿度（相対湿度40%以上～60%程度）管理でかかりにくい環境作りや、抗インフルエンザ薬での適切な対応が大切になってまいります。

一方、肺炎球菌性肺炎は高齢者に多く、年齢とともに増えていきます。また、インフルエンザにかかった後に合併する肺炎の原因菌としても肺炎球菌が多いといわれております。

肺炎球菌ワクチンには、ニューモバックス（23価）とプレベナー13（13価）の2種類があります。23価は23種類の肺炎球菌に対する免疫が出来、平成26年10月1日～平成31（2019）年3月31日までの間、65歳以上の定期接種が認められ、5歳刻みでの1

回のみの公費助成制度があります。13価は13種類の菌に対してと23価より少ないのですが、効果の期間が長いという特徴があります。平成26年から任意接種（公費の助成はありません）が可能となりました。

さらに予防効果を持続させるためには2回目以降の接種が必要です。2回目以降は任意接種となりますが、アメリカのCDCの勧告では23価の場合は5年に1回打ちなさいとなっているようです。13価の場合は1回の接種でその効果が長い期間持続すると考えられています。すでに23価を接種している方は、1年以上間隔を開けて13価を接種すれば、大きな副作用等の問題はないといわれており、両方のワクチンに共通している型への抗体価が高まるブースター効果も認められております。その後に再び23価を接種する場合は、6ヶ月から4年以内の接種を勧めておりますが、初回の23価の接種からの間隔は5年以上開ける必要があります。

さらに、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの同時接種については、副作用の面からも効果の面からも、同時に左右別々の腕に接種することに問題はありません。インフルエンザ後の肺炎は肺炎球菌が原因であることが多いのですが、同時接種で両方を予防して行くことで、肺炎球菌ワクチンの接種率の向上にもつながると思われます。

肺炎で亡くなる方は年間約12万人おられ、そのうちの96%は65歳以上とのことです。病気は、予防が重要です。病気になりにくい生活習慣や環境そして予防接種等で対応して健康寿命を延ばして行きたいものです。



職場紹介

利用者、ご家族に寄り添い＝笑顔溢れる生活をサポート＝ 敬愛荘 リハビリテーション科

敬愛荘リハビリテーション科には作業療法士3名、理学療法士2名在籍し、在宅生活へ向けて、利用者やご家族が感じている動作や介助の大変さを軽減できるようにリハビリテーション（以下リハビリ）を実施しています。その為にも入所時に自宅での生活の様子や、ご本人やご家族が感じていること、不安なことをお聞きしながら目標やリハビリ内容の設定を行っています。介護老人保健施設のリハビリは入所されている全ての利用者が実施の対象となっておりますが、入所日から3ヶ月間は週3回以上の個別リハビリを行う「短期集中リハビリテーション」の実施期間となっております。（過去3ヶ月以内に介護老人保健施設を利用していない方に限る）。当施設では概ね週5回の個別リハビリを実施し、在宅生活へ向けて必要な動作の練習や介護指導、福祉用具の選定などを行っています。また、認知症と診断された利用者に対して、医師の指示のもと週3回の「認知症短期集中リハビリテーション」を実施し、手工芸等の作業療法や計算等の学習療法、体操や歩行練習等の運動療法を通して認知症状の緩和や日常生活の介助量の軽減につなげられるようリハビリを行っています。入所

から3ヶ月で短期集中リハビリテーション期間が終了し、その後は週2回のリハビリとなりますが、個々に応じた自主練習メニューを作成し看護師や介護士と自主練習を行ったり、動作練習などの生活リハビリを行うことで心身機能が維持できるよう取り組んでいます。効果的なリハビリをすすめるために他職種との情報交換や連携も大事にしています。

これからも利用者やご家族の不安や負担を少しでも軽減し、笑顔溢れる生活が送れるようリハビリ職員全員で協力して取り組んでいきます。



スタッフ紹介

充実した生活が送れるよう支援

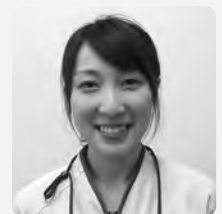
はじめまして。南昌病院リハビリテーション科、作業療法士の菊池愛理と申します。私が作業療法士になり、入職してから4年となりました。優しく、経験豊富な先輩方に囲まれ、ご指導いただきながらより良い作業療法を提供できるよう日々努力しています。

私は主に回復期リハビリテーション病棟を担当しています。脳卒中や骨折などで起き上がる・歩く・手を動かすなどの基本的な動作、着替えや食事、入浴などの日常生活動作が不自由になってしまった患者さんに対して動作の方法や様々な手段を考慮しながら再び元の動作ができるよう関わっています。また、仕事や家事、日課など病気になる前に行っていた活動が再獲得できるように鋭意取り組んでいます。

私が患者さんと関わる中でいつも思うことは、退院後も自分らしく生き生きと生活して欲しいということです。そのために作業療法士として「その方らしい生活」を送るための支援は大事なことだと感じています。患者さん一人ひとりの障がいの程度に違いはあり、着替えや食事、

入浴などの活動の中にも個性や価値観があり「自分らしさ」があります。「歩きたい。」「手が動くようになって欲しい。」という希望がよく聞かれますが、歩いて何をしたいのか、何をするために手を動かしたいのかも一人ひとり違った想いを抱えています。また、退院後も「その方らしい生活」を送れるように、「生きがい」を一緒に探していくことも大切です。それは、人によって異なり、仕事や趣味、家族との関わりなどさまざまです。そんな「自分らしさ」を大事にしながら、患者さんの生活を支援できるように目標を共有して一緒に取り組んでいくことが大切だと考えています。

これからも作業療法士として、患者さんに寄り添いながら色々な想いを汲み取っていき、退院後も自分らしい充実した生活が送れるよう、知識・治療技術の向上に励んでいきます。

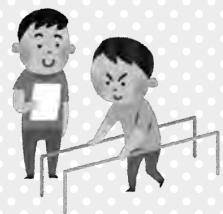


南昌病院 作業療法士
菊池 愛理



「リハビリテーション」

その②



“宇宙医学”と“リハビリテーション医療”

日本人宇宙飛行士の金井宣茂さんが、ロシアのソユーズ宇宙船に搭乗し、国際宇宙ステーションへと飛び立ちました。金井さんは、およそ半年間、国際宇宙ステーションに滞在し、多くのミッションに取り組むそうです。

宇宙とリハビリテーションにどんな関係があるの?と思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、今回の長期滞在において、医師でもある金井さんのミッションテーマは「健康長寿につなげること」だそうで、例えば、アルツハイマー病などの原因となるアミロイド線維の構造や形成メカニズムを明らかにする実験やタンパク質結晶生成実験など、宇宙空間だからこそできる様々な実験を行うのだそうです。

遡れば、2011年に今回の金井さんと同じようにソユーズに搭乗し、国際宇宙ステーションにおよそ5ヶ月半滞在した医師の古川聡さんもまた、ご自身の身体をもって宇宙空間での長期滞在が人にどのような影響を与えるのか?について研究をされたと記憶しています。

宇宙飛行士が地球に帰還すると、すぐに重力環境に再び適応するための集中的なトレーニングが開始されるそうですが、この時の古川飛行士もアメリカ航空宇宙局(NASA)による45日間の様々なリハビリプログラムに取り組み、その様子はNHKニュースでも放送されました。その中で古川さんは、いわゆる“寝たきり”の状態は、無重力の宇宙空間にいるのと同じ状態であり、そのように考えると、宇宙飛行士が行うリハビリプログラムを高齢者のリハビリテーションなどに応用できるのではないか、という趣旨のことを述べていたのが強く印象に残っています。

寝たきりと無重力状態が似ているという前提に立てば、宇宙飛行士の身体に起こる様々な変化について理解を深めることと、そして、それらにどのような対策を講じるのかを知ることは、リハビリテーション医療にとって多くのヒントを与えてくれることと思いますし、その逆もまた然りであろうと思います。

重力と身体との関係

国際宇宙ステーションはおよそ400km上空の微小重力環境にあるそうですが、重力が作用しない環境は、

生体に様々な負の影響をもたらすと言われます。例えば、骨がもろくなる「骨粗鬆症(こつそしょうしょう)」や筋肉がやせ衰える「筋萎縮(きんいしゅく)」などはその代表です。また、その他にも身体の垂直保持や移動の際の加速度を感知する「平衡機能(へいこうきのう)の障害」、心臓の拍出量などを制御する「循環調節の障害」などもあり、全体的な身体機能の低下が急速かつ高度に進みやすく、宇宙医学の分野ではその対策が急務だと言われています。



一方、高齢者を中心としたリハビリテーション医療の中では、ケガや病気によって長期間の安静臥床が強いられる際に生体に生じる様々な生理的変化、いわゆる「廃用症候群(はいようしょうこうぐん)」をいかに防ぐかが重要な課題となります。

人が24時間の生活の中でどのような姿勢をとるのかを考えると、睡眠以外は、基本的には座位姿勢(座った状態)や立位姿勢(立った状態)でいることが多いわけですが、これらの姿勢を総称して抗重力姿勢(重力に対抗して頭部が上に位置し、骨盤や下肢(脚と足)で支える姿勢)といいます。常に重力という力が加わっている状況では、抗重力姿勢を取るだけでも骨や筋肉あるいは循環機能や代謝機能などには重力という生理的刺激が加わり続けていることになります。ところが、臥床状態というのは、重力の受け方が座位姿勢や立位姿勢とは異なりますので、その状態が長期間になればなるほど、身体はそれに合わせるように、様々な機能低下が生じます。それが「廃用症候群」ということになります。

「廃用症候群」という言葉は学術用語ですので、言

葉だけではイメージしにくいかも知れませんが、これはいわゆる「生活不活発病」と同義であると捉えて結構だと思います。状態としては、まさに古川飛行士が述べたように、宇宙に長期滞在した際に生じる様々な身体的、生理的变化能の低下と同じ様な状況になると認識して間違いはないと思います。

人類が二足直立歩行の獲得で進化を遂げてきた過程を踏まえると、その身体構造や機能（運動機能や生理機能）の特性と恒常性は、1Gの重力環境に適應することで獲得されたものであり、重力環境によって保たれているとも言えます。宇宙飛行士は、出発前から低下が予測される身体機能を鍛えて準備をし、宇宙滞在中もできるだけ衰えないように運動を続け、地球帰還後はそれでも低下した様々な身体機能を取り戻すために、リ

ハビリプログラムに取り組むそうです。こうして考えると、やはり「宇宙医学」と「リハビリテーション医療」は密接な関係にあるようです。

今回は、「宇宙医学」の世界で明らかにされている微小重力が身体に与える影響と「廃用症候群」の中身についてまとめてみたいと思います。



各施設から

若園荘

施設紹介

グループホーム：認知症高齢者が共同で生活できる場（住居）で、食事、入浴などの介護や支援、機能訓練が受けられる施設です。盛岡市在住者が対象です。

〈避難訓練〉

10月31日日中キッチンで揚げ物を準備中、天ぷら油に火が入って火災発生という想定で避難訓練が行われました。消防への連絡と入所者の避難を当日出勤のスタッフで行いました。若園荘の避難訓練は年2回、その都度いろいろな場面を想定して行います。入居者の皆さんは普段使わない階段を慎重に降りていました。非常階段に荷物があり避難の支障をきたすなど反省点もみられました。常に真剣に取り組み万が一に備えたいと思います。



〈サックス演奏会〉

11月15日若園町の黒江歯科の黒江俊院長によるサックス演奏会が行われました。

「おぼろ月夜」や「みかんの花咲く丘」などアンコールを含め12曲を演奏しました。

入居者の皆さんはサックスのきれいな音色に耳を傾けていました。中には曲に合わせて口ずさむ方もいました。黒江先生にはお忙しいなか、来荘していただき有難うございました。またよろしくお願いします。



● 若園荘行事 1月 みずき団子作り/2月 節分豆まき/3月 ひな祭り ●

〈平成29年度感染症・食中毒予防対策研究会を受講して〉

食中毒とは、飲食物を介して体内に入ったある種の病原微生物や有毒・有害な物質によって起こる健康障害で主にサルモネラや黄色ブドウ球菌、ノロウイルスなどがあります。若園荘ではスタッフが調理を行うので、食中毒に関しては既に知っていることの再確認も含めて大変勉強になりました。

食中毒予防の3原則として

原則1 菌を付けない（清潔）

- 調理の前には必ず手を洗う。
- 傷のある手で調理するときは手袋をする。
- 調理中でも、肉・魚・卵を触ったら必ず手を洗う。
- 魚介類は水道水（流水）でよく洗う。
- まな板・包丁は用途別及び食品別に用意し、使用後は洗浄、殺菌消毒する。



原則2 菌を増やさない（迅速・温度管理）

- 調理の途中で、食材をそのまま放置しない。
- 自然解凍は菌を増殖させるもと。
- 調理後の食品は出来るだけ早く提供する。
- 時間をおく場合は、温度管理を徹底する。
暖かい状態で提供される食品 65℃以上
その他の食品 10℃以下

原則3 菌を殺す（加熱）

- 食品の中心部まで十分加熱する。
- 汁物の加熱は必ず沸騰するまで。
- 電子レンジの加熱は時々かき混ぜて。
- 食品を冷凍しても菌は死なない。



というのがあります。これらに注意して入居者に安全な食品を提供したいと思います。

看護学生の臨地実習場としての責任

看護科 臨地実習指導委員会

現在の南昌病院で受け入れている看護師養成学校は、岩手看護専門学校（本科）2・3年生、岩手女子高校看護課程2・3年生、盛岡看護医療大学校1年生です。

岩手看護短大は、平成27年度で岩手医大へ移行となったために中止となりました。

盛岡看護大学校は、新設と同時に昨年から受け入れました。将来的には、岩手医大看護学部も受け入れ予定となっています。

学生数は平成28年の述べ人数が997名でした。

実習前には準備が有ります。各学校の教員と教育理念や教育方針や教育目的や実習目標といったことを毎年確認しあって実習開始になるわけです。

看護教育の最大の特徴は臨地実習で、ありとあらゆる場面が教材で、学生たちの飛躍的な成長のチャンスとなります。患者さんを目の前にして将来看護師としてしなければならないこと・考えて行なうことなど患者さんに対する厳しさに否応なく直面することになります。

その、不安は看護師ならたいいの人が経験することです。その不安を助けながらスムーズに実習が展開できるようにするのが実習指導者の大きな役割です。

教員との連携や、学生の感想を参考にしたり意見交換をしながらの指導となります。

指導者には、実力や人間性が問われることは当然のことで「看護モデル」でも有ります。

指導者育成には、岩手県の委託事業としての岩手県看護協会が毎年行なっているのが「看護実習指導者講習会」なので毎年2名ずつ出席して、教育基本法や教育原理・評価方法・実習指導案などを学び、その修了者を指導者の中核にして指導に当たっています。現在教員資格者が2名、実習指導者研修会修了者が17名おります。

病棟には、研修修了者が均衡的に配置され、病院内でも外部から講師を依頼して研修をしたり指導者同士の意見交換をしたり、逐次教員との連携をとりながら指導に当たっています。

「教えることは学ぶこと」「後輩を育てるのは自分たち看護職である」と自覚し責任ある臨地実習の指導看護師として育ち続けていくこと、学び続ける姿勢をもつことを大切に実習指導を行なっていきたいと考えます。

それが延いては、人材確保にもなっていくことも忘れないようにしたいものです。



毎日運行しています!! ～無料シャトルバス～

〈矢幅駅西口から南昌病院間〉無料シャトルバス運行時刻表

◎ 運行日／毎日（祝祭日等を含む）

【往路】

〔ケアセンター 南昌〕	〔志和荘〕	〔悠和荘〕	〔南昌病院・ 敬愛荘〕
※ 8時15分	～ 8時26分	～ 8時28分	～ 8時30分
10時00分	～ 10時11分	～ 10時13分	～ 10時15分
12時45分	～ 12時56分	～ 12時58分	～ 13時00分
14時45分	～ 14時56分	～ 14時58分	～ 15時00分
※17時30分	～ 17時41分	～ 17時43分	～ 17時45分

【復路】

〔南昌病院・ 敬愛荘〕	〔悠和荘〕	〔志和荘〕	〔ケアセンター 南昌〕
※ 8時45分	～ 8時47分	～ 8時49分	～ 9時00分
10時30分	～ 10時32分	～ 10時35分	～ 10時45分
13時15分	～ 13時17分	～ 13時19分	～ 13時30分
15時15分	～ 15時17分	～ 15時19分	～ 15時30分
※18時00分	～ 18時02分	～ 18時04分	～ 18時15分

※の時刻は、土曜・日曜日及び祝祭日、運行休止となります。

注) 運行時刻は、交通状況により、発着時間に遅れが生じる場合があります。



学会発表報告

第25回日本慢性期医療学会 地域が創る慢性期医療 —新たな医療への挑戦—

期間：平成29年10月19日（木）～20日（金）

会場：仙台国際センター会議棟

【演題】

「過去3年間のインシデント・アクシデント報告の比較から見てきた今後の課題」

博愛荘 岩澤 元気（介護福祉士）

【発表の要旨】

平成25年度開業時からセーフティマネージャーが中心となり安全対策を強化しているが、平成26年度から利用者が増加すると共に事故件数が増加傾向にあった。過去3年間のインシデント・アクシデントを集計、発生の傾向や要因を分析し今後の対応策について検討した。

事故の種類では転倒・転落が4分の3を占めており、スタッフの入れ替わる15時～17時、また、覚醒が始まる4時～7時に多くみられた。内容としては車椅子やトイレへの動作での転倒・転落がほとんどであった。負傷事故や薬関係もあったが減少傾向になっている。

認知力が低下した利用者は予測どおりの行動を行うとは限らず、転倒を回避する手段ができずに事故につながるケースが多いため、現在の環境で、どのような行動をとるかを想定し事故防止に努めていく必要がある。

【最後に】

利用者の皆さんに安心・安全に生活してもらうために、私たち職員は日々の生活を送る中でどうすれば事故に繋がらないかをミーティングで考え観察力と洞察力の向上に努めていきたいと思う。



第17回東北地区 介護老人保健施設大会 in 秋田 笑顔がいっぱい!老健っていいねがっ

期間：平成29年10月20日（金）～21日（土）

会場：秋田ビューホテル

【演題】

「クエン酸を用いた健康法を試みて ～スタッフの心と身体 の健康のために～」

博愛荘 小笠原 由華（看護師）

【発表の要旨】

多種ある健康食品、嗜好品の中でも、クエン酸は疲労回復に効果的であることが一般的に知られている。職場内でも健康嗜好品としてクエン酸を摂取している職員が複数居り「疲労回復が良く目覚めがよかった」「便通が改善した」という声が聞かれた。

そこで、新たにクエン酸服用を試みる職員をつのり、服用開始前後の体調変化を検討した。

対象は女性職員5名。血圧、便通、疲労度、その他の体調変化について、クエン酸服用開始1週間前から身体状況の観察を開始し、記載してもらった。

結果として、疲労感やその蓄積が軽減されることが確認できた。又便通改善は5名中4名に認められたが、血圧への影響はほとんど見られなかった。

職員の自覚的健康感がアップすると、職場雰囲気 の改善にも連動するものと考ええる。高齢者にも食品を通じてクエン酸摂取を試み、便通や易疲労性改善を図れる可能性があると考ええる。

【質問】

座長より、服用量について質問があり、1日2包(4g)あたりクエン酸1000mgである事を返答しました。(顆粒スティックタイプ)

【最後に】

秋田の自然豊かな風景、秋田の美味しい食、秋田の人の温かさにふれる大会参加となりました。ありがとうございました。



「生の声」さらなるサービス向上へ

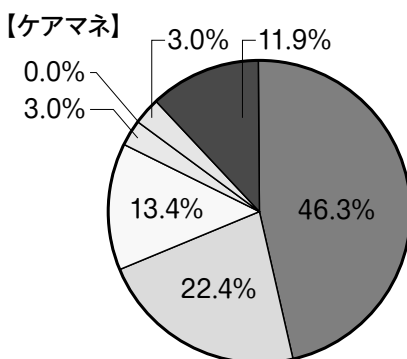
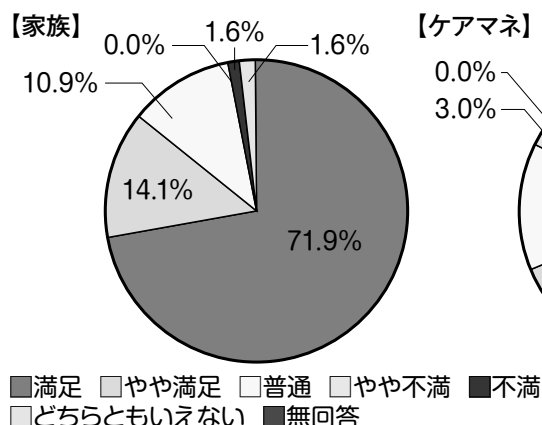
＝満足度調査等から＝

◎ショートステイやはば
◎敬 寿 荘

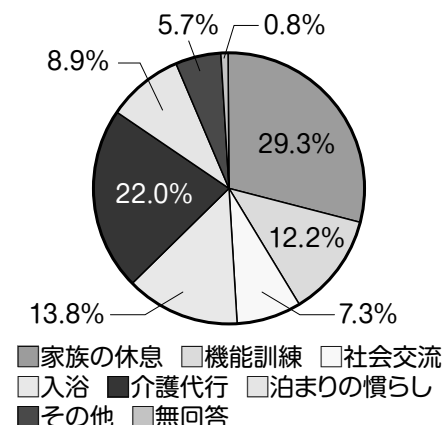
ケアセンター南昌内にあるショートステイやはば（以下「SSやはば」と記載）は平成25年に開設し、5年目を迎えました。これまで多くの方に利用いただいており、提供させていただいたサービス内容についての満足度調査を実施しました。今回はサービス利用者、ご家族とサービス利用に結びつける役割を持つ居宅支援事業所の介護支援専門員に協力をしていただきました。その結果を一部報告致します。

対象者：H29.4/1～H29.8/31までのSSやはば利用者 100名へ配布 回収率68%
盛岡市、矢巾町、紫波町の居宅支援事業所 18事業所 計71名へ配布 回収率94%

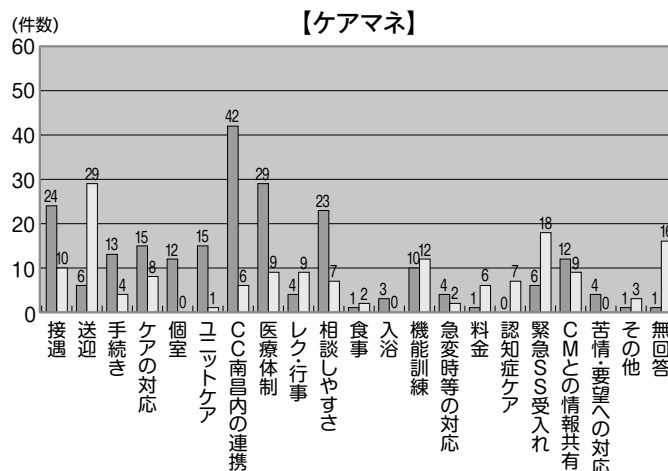
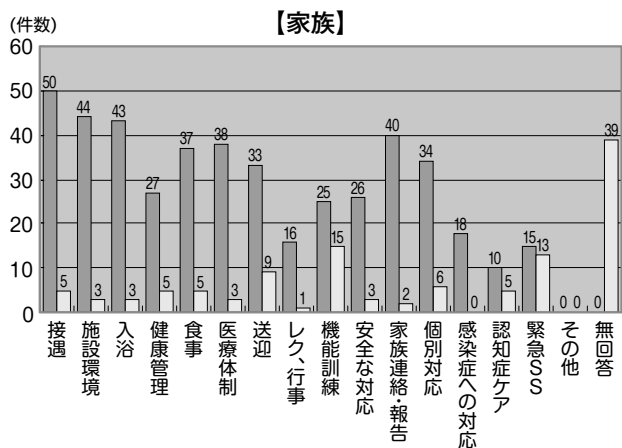
① SSやはばのサービス内容についてはいかがですか？



② SSやはば利用目的（家族）



③ SSやはばのサービスで良いと思われる点と充実して欲しい点は何ですか？



- サービス内容については、家族86%、ケアマネ68.7%の方から満足と回答。
- SSやはばの利用目的については、「家族の休息」「介護代行」を合わせて51%と介護の負担軽減を目的とした回答が多くみられた。
- サービス内容の充実については、家族・ケアマネそれぞれの視点に違いがある為、バラつきが見られたが、充実が必要な点については同じような内容が選択されていた。
特に高い項目として、「機能訓練の充実」が家族・ケアマネともに10件を超えていた。また、ケアマネからの「送迎体制の強化」と「緊急SSの受入れ」の充実が必要との回答が多く見られた。

【自由記載】

個別の対応をしてもらってありがたく思います。

医療処置（経管栄養、在宅酸素、吸引等）が必要な方も受け入れてもらえるので助かります。

職員によって態度が違う。土日の送迎があると良い。等

今回の調査でなかなか聴くことの出来ない“生の声”を確認することが出来ました。結果を踏まえてさらなるサービスの向上に努め、皆さんに満足いただけるようなサービスを提供できるよう取り組んでいきたいと思っています。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

敬寿荘では今年度も利用者の家族へアンケートを実施いたしました。9項目ありましたが、その一部をご紹介します。

1. グループホームの利用者の入居生活はいかがでしょう。

- グループホームでの集団生活は母に合っている様子で、独居時代より健康的です。
- 穏やかに生活しているように見えます。
- 家庭的な雰囲気が良いと思います。
- 日によって気分のムラがありますが満足していると思います。
- お酒も飲んでいるようで、ホームの生活に慣れてきているようです。
- 安心してお願いできると思います。（退去された家族より）
- 自宅では無理な対応をしていただいて安心しております。
- 健康面・栄養面については安心してお任せしています。まだ慣れてない事もあり、精神的に不安定な様子です。
- 入居者が退屈そうなので、なにか手作業でもしたらどうでしょうか。



2. 敬寿荘は入りやすい雰囲気ですか。

- いつも明るく入りやすいです。
- いつでも受け入れてくださり良い雰囲気です。
- スタッフの人たちの笑顔と声掛けで入りやすいです。
- 受付の方も明るく気さくで、敬寿荘スタッフも大変親切にしてもらっています。
- 1階で受付した時に、5階へ連絡してもらえると入りやすいです。



3. その他・要望等

- 家族参加の行事がある時の連絡が、もう少し早めにほしいなと思う時があります。
- 時間や人員の配置等に余裕があれば、散歩や買物など、外に出る機会を多く設けてほしいです。室内では、手先を使う作業を促していただけると幸いです。
- 職員の入社・退社の状況がわかりません。

貴重なご意見ありがとうございました。ご意見に対しては一人ひとりのニーズに沿えるように対応して行きたいと考えております。また、ご家族の意見を伺いながら、より充実した生活ができるよう努めてまいります。



各施設から

ケアセンター南昌での主な取り組みについて (H29.10~12)

【季節を感じていただける入浴を目指して】(博愛荘)

冬本番となった12月に、5階大浴場では利用者に、ゆず湯を楽しんでいただきました。また、6月にはどくだみ湯、10月にはしょうが湯など、年間を通じて季節に合ったお風呂を提供しており、「良い香りがしている。」「今度は何湯にするの?」など利用者からの反応があり、大いに楽しんでいただいているようです。この取り組みは、センター内の公募で職員が提案したアイデアであり「利用者の楽しみ、生活向上に資する企画」に値するとして昨年入賞、実施されているものです。湯船のみならず、季節の花や装飾でも喜んでいただいています。浴場に漂うゆずの良い香りに、みなさん癒され、また会話はすんで入浴の時間を心ゆくまで堪能されたようです。今後の予定として、2月には大根湯、4月にはさくら湯など予定しています。



【権利擁護の学習会】(包括支援センター)

矢巾町地域包括支援センターは、11月15日(水)に矢巾町ケアマネ連絡会・矢巾町と協働し、「権利擁護の学習会」を開催しました。介護・障がい関係職員、民生児童委員さんや町職員、約80人が参加されました。講師は、岩手県社会福祉士会の虐待対応専門職委員会委員長の高橋勝氏にお願いし、わかりやすくユーモアたっぷりにお話していただきました。内容は障がい者・高齢者の虐待への対応や考え方、障がい者・高齢者の意思決定支援などについてでした。日頃の業務に活かせる内容で、参加された皆さんは熱心に耳を傾けていました。これからますます障がいと介護は連携が必要であり、今日知り合った仲間と協力していこうとお互いの役割を学び合い、協力していくはじめての一步となりました。



【焼き芋大会】(こずかた保育園)

春に「こずかたランド」に植えたさつま芋は予想を大幅に超え、60kg以上の収穫ができました。その沢山のさつま芋を、3・4・5歳児が湿らせた新聞紙とアルミホイルで包み準備完了。当日は、お手製の窯に入れ、焼きあがるのを待ちました。ほっこりホクホクの焼き芋ができあがり、お口をハフハフさせながらおいしく食べました(^ ^)



【お楽しみ会】(こずかた保育園)

記念すべき第5回お楽しみ会は『5年目のスマイル 広げていこう 笑顔の輪』のテーマを掲げ行われました。オープニングの合奏は、少し息が合わなかったところもありましたが、それがまた、可愛く、会場にお集まりいただいたお客さんを笑顔いっぱいにしました。

子どもたちの一生懸命な姿に心もなごみ、成長した姿に思わず涙が…。



【家族のつどい】(DSつむぎ)

昨年に引き続き、第2回“家族のつどい”が開催しました。オレンジボランティアさん2名、職員を交え計9名という少人数ではありましたが、会話が掘り下げられ、内容が充実していたように思います。介護者である家族の体験談は、介護の工夫やヒントが詰まった宝箱です。体験を共有し、気持ちを発散する有益な場となっていると感じました。また、自宅やデイサービスでの利用者の様子について、家族と職員が直接情報交換できる良い機会ともなっています。

～参加家族の感想(一部抜粋)～ ●本人が一番つらいことをくみとってあげることで安心した気持ちになり、家族も楽になると思います。参加したくても出来なかった方が参加しやすいような取り組みが今後の課題でしょうか。今回のような少人数のほうがよく話が見えてよかった気がします。



【ケアセンター南昌研修会】

ケアセンター南昌では、職員のスキルアップや、職員の安全管理のために、各月のテーマに沿った研修会を実施しております。講師には、各種研修会等に参加した職員、各分野の専門の先生、そしてときには県外からも講師をお招きし開催しております。

10月 「多職種連携とチーム医療を考える」 参加者：59名

講師：町立西和賀 さわうち病院 病院長 北村 道彦 氏

当センター職員のみならず、外部からの参加者も多数あり、北村先生が説く「チーム医療」への関心の高さを感じました。

沢内村の医療の歴史（生命尊重、予防重視）から、さわうち病院の現状等についてお話をいただき、医療の地域完結性の上昇を図り、町内外の医療機関や介護施設との連携強化に努めていること。医療の質の保証やフレイル対策に力をいれていらっしゃるとのことでした。

そしてチーム医療は、患者の健康問題を中心に患者自身も参加するチーム医療へと形を変えてきていること。そして新しいチーム医療の考え方としてIPW：Interprofessional Workについて触れ、その実践の中でも特に メディエーションとファシリテーションの重要性を指摘されました。

医療職として治療をするだけでなく、患者の住む地域、そして人生まで考えていらっしゃる姿勢に感銘を受けた研修でした。

11月 「施設における高齢者のフィジカルアセスメント」 参加者：45名

講師：岩手医科大学附属病院集中治療部 集中ケア認定看護師 鎌田 景子 氏

「フィジカル（＝身体的な）アセスメント（＝情報を意図的に収集して判断する）」とは、問診、視診、触診、聴診、打診等を通して実際に患者の身体に触れながら、症状の把握や異常の早期発見を行うことです。岩手医科大学附属病院の第一線で活躍している集中ケア認定看護師の鎌田先生の講義ということで関連グループから多数の看護、介護、リハビリ職員を中心に参加がありました。約1時間という短い時間に関わらず、加齢による心身の変化から始まり呼吸器、循環器、脳神経、腹部系のアセスメントのポイントや事例をまとめていただき、中身の濃い研修となりました。知識や技術だけを持っているだけではなく、異常に対しての「気づき」が重要であることを学びました。



12月 「感染症・食中毒の予防」 参加者：32名

講師：ケアセンター南昌 感染症・予防対策委員会 博愛荘看護師 熊谷 拓 氏

地域でもインフルエンザの発生の情報がある中、当センターの感染症予防・対策委員会委員の熊谷看護師を講師にセンター職員向けの研修を行いました。感染症や食中毒の発生に最も留意しなければならない時期を迎え、参加した職員は真剣な眼差しで講義を受けていました。全職員が正しい知識を持って、感染症等の発生、拡大予防に努めなければならないと再認識した研修となりました。

業務での経験だけでなく、研修会を通し職種を越えて研鑽を積み、質の高い安全なケアの提供に努めていきたいと思えます。

【平成29年ケアセンター南昌アイディア募集結果】

今年もケアセンター南昌職員対象のアイディア募集大会が開催されました。昨年よりも応募総数は少なかったものの、厳選なる審査の結果一件の優れたアイディアが『優秀賞』に選定されました。

《優秀賞》

「寿司やアロマセラピー、手足のマッサージなどの出前サービス提供」

受賞者：ショートステイやはば 介護福祉士 猿舘 美紀子

【受賞者コメント】

「一年かけてアイディアを練りました。利用者の笑顔を一番に考えて練ったアイディアだったので、選んでいただけてとても嬉しいです。」



受賞までもう一步

- 異なる事業所同士で定期的にランチ・弁当を食べながら談笑すると共に、情報交換をし相互理解を深める。
- 利用者や家族への対応や支援が優れており、感謝されることの多い職員を顕彰する。

志和荘

施設紹介

特別養護老人ホーム：常に介護が必要で自宅では介護ができない方が対象の施設です。

【矢巾中央保育園交流会】……

10月10日(火)、矢巾中央保育園の年長さんが志和荘に来てくれました。可愛らしい踊りや合唱の披露に、入居者は大喜びで終始拍手を送っていました。

組体操の発表もあり、小さい体で技を決める姿に「すごいすごい」との声があがっていました。最後は手遊び歌で交流し、握手をしたり体をギュっとしてもらいパワーをたくさんもらいました。来年もお待ちしております。



【リーダー研修】……



10月19日(木)、矢巾町地域包括支援センター吉田均所長を講師に迎え、敬愛会法人研修『リーダー研修』を行ないました。志和荘・悠和荘・こすかた保育園のリーダーが参加しました。

リーダーに必要な7つの力(先見力・目標設定力・動員力・コミュニケーション力・マネジメント力・判断力・決断力)について学び、『苦手な職員との上手な付き合い方』では、接し方の難しい10通りの職員への対応等について学びました。一例として、「取っつきにくい就職したての年上の職員」との接し方のポイントは「リスペクトの気持ちを持ち、それが相手に伝わるように接すること」との事でした。(決して「おっさん」「おばさん」呼ばわりをしてはいけません。)

最後にリーダーに求められることは、『易きに流されず、強い決意と覚悟を持ってやるべきことをやり遂げていく。あきらめず、投げ出さずに、ひたすら邁進していく。その姿勢を常に持ち続けること』とのことでした。自分自身を見つめ直し、少しでも良いリーダーに近付けるよう頑張っていかなければならないと思いました。



【南昌福祉の里 文化祭】……



10月21日(土)、南昌福祉の里文化祭を開催しました。今年のテーマは『ふれあい』。ご家族とのふれあい・仲間同士のふれあい・地域の方とのふれあい・職員とのふれあい……。たくさんの『ふれあい』を感じてもらえたら嬉しいです。

矢巾町の双葉会の皆さんによる歌や踊り・股旅演芸が披露され、皆さんとても喜んでいました。食事では、喫茶・食事コーナーの他にあさあけの皆さん・外屋台では、矢巾観光開発・3ちゃん・味橋屋・松野ふとん店の皆さんによる美味しい物も盛り山でした。

新しい試みとして、志和荘の行事や日常を撮影した『志和荘 DAYS』の上映会や普段あまり見る事のない『施設見学ツアー』などを企画しました。

今年度実行委員長の小林は「準備は大変でしたが、皆さんの喜ぶ顔が見られてとても嬉しかったです。」と話していました。

来年度は、今年度以上に楽しい企画を行ないます！是非、お越し下さい～！



【不動小学校交流会】……

11月15日(水)、不動小学校4年生の皆さんと交流会を行ないました。澄んだ美しい歌声を持つ男の子や、素敵な笑顔の女の子達の姿に目を細めて観賞し、口を大きく開け、楽しそうに歌う姿に元気をもらいました。生徒さんとの手遊びも行ない、楽しい交流となりました。



生徒さんに、心のこもった手作りカードもいただき、「体に気をつけて長生きして下さい」との優しい気持ちや、職員に「お仕事ご苦労様です」との労いの気持ちがぎゅっ詰まっていました。

不動小学校の皆さんも寒さに負けず元気に楽しく過ごして下さいね～！



★岩手県主催の『食の安全安心を考える講座』に参加

管理栄養士の澤里が、志和荘の管理栄養士の遠藤と共に岩手県 環境生活部くらしの安全課 主催の「食の安全安心を考える講座」(全5回)に参加し、12月14日で全て終了しました。参加者には保育園・特別養護老人ホーム・食生活改善推進員団体連絡協議会・岩手県消費者団体連絡協議会・学校給食など幅広い分野での参加がありました。

第1回目は「身近な食品の安全管理」として産地偽装・残留農薬・食物アレルギー・食品と医薬品の違い・ヒ素について。2回目は「食中毒予防」。3回目は「望ましい食生活について」健康いわて21 プランの説明。4回目は「農薬について」、最後の5回目は「HACCPの施設見学」として小岩井乳業に工場見学に参加しました。

全ての会に於いて食品の安全性を疑う方たちの正直な意見も多く出され、良い意見交換の場になりました。

研修の際、主催者が一番伝えたかった内容だと感じた点は

【ハザード(毒性)×暴露量(摂取量)=リスクの大きさ】

「絶対に安全」な食品は存在しないので、どれをどの位摂るのかを自分で判断していく。これに尽きるのではないかと感じました。施設としても入居者に安全な食事を提供できるよう、今後も最新の情報を捉えていき、活用していきます。



★悠和荘 意見交換会

毎月1回入居者の皆さんの意見を聞かせて頂く機会として『意見交換会』を開催しています。各ユニットにお邪魔し、行事予定のお知らせと、前月の振り返りとして前月行われた行事の写真を配布しています。自分の姿を見つけるのも楽しく、和気あいあいと開催しています。入居者の皆さんから意見・要望も伺います。「特にありませんよ」といった意見も多いですが、入居者の皆さんとコミュニケーションを図り、皆さんの要望を少しでも叶えていきたいと思ひます。



★文化祭

10月21日(土)「輝き」をテーマに文化祭を開催しました。今年のステージイベントは矢巾コールとガマガエル合唱団の皆さん。男性コーラスのガマガエル合唱団は力強い歌声で、女性コーラスの矢巾コールは優しい歌声で～最後は会場全体で「赤とんぼ」「ふるさと」等 一緒に歌い大盛り上がり。

作品コーナーはさくらの船の会の皆さんと一緒に作ったコサージュや写真立てなど凝った作品が多く、お客さんもしっかり見て感心されていました。屋台では南昌やまゆりの会の皆さんに手伝ってもらい悠和荘の畑で育てたサツマイモを石焼き芋にしました。入居者・お客さんから「甘くておいしいね。」と大好評でした。焼き芋窯は今年も大活躍です。

地域の方々、ボランティアの皆さんにお手伝いしていただき無事に終わることが出来ました。



恒和荘

施設紹介

小規模多機能型居宅介護事業所：小規模な住宅型の施設で、通いのほか、訪問、短期間の宿泊などを組み合わせて食事、入浴などの介護や支援が受けられる施設です。盛岡市在住者が対象です。

今年も恒和荘ではいろいろな行事を行ないました。特に若い人との交流では、元気と感動を頂きました。若さっていいですね。今後も老若男女が集まる恒和荘でありたいですね。

～お茶会へどうぞ～

11月25日、岩手女子高校合唱部を招いて11月のお茶会を開催しました。岩手女子高校には、去年も訪問していただけた予定でしたが生徒さんの体調不良により実現しませんでした。今回、再度こちらからお声かけをして来ていただきました。

利用者の皆さんは、高校生の若いパワーとさわやかな歌声に感激していました。また、一緒に手遊びなどで交流し、終始笑顔で楽しい一時を過ごしました。



●歌っことは
みんな楽しい
合唱だ

●みんなにね
笑顔としあわせ
学生さん

山王小学校3年生 総合学習のための施設訪問

12月15日に山王小学校3年生32名が来荘しました。本の読み聞かせや手遊びなど披露していただきました。最後には、利用者の皆さんにクリスマスカードのプレゼントがあり、利用者の皆さんは泣いて感動している方もいました。「また来てもらいたいね」と喜んでいました。



手作りの
プレゼント



クリスマス会



中高生10名によるボランティアグループスタジオPOMEの皆さんによる太鼓演奏、沖縄民謡の歌と踊りなどを披露してくれました。リズムに合わせて手拍子が出て楽しめました。その他ビンゴゲームでは皆さん必死になり数字を探す姿が印象的でした。「いのちの歌」の合唱に皆さん感動していました。もう一度聴きたいですね。



紅葉を満喫! 網張温泉へ

10月20日、栗石・休暇村岩手網張温泉へ紅葉狩りに出掛けました。天候には恵まれず雨模様でしたが、紅葉は今までで一番きれいでした。散歩が出来ず残念な様子の利用者の皆さんでしたが、昼食にはカレーライスやひつまみ定食、松ぼっくりではミルクジェラートを召し上がり、ニコニコと大満足でした。ゆっくりと過ごすことができましたが、温泉に入ればもっと良かったかな…。



高齢でも筋力は鍛えれば向上します

からだを動かさないでいると、しだいに筋力は弱まり、活動の意欲も薄れ、さらに衰弱が進むという悪循環におちいりがちです。風邪などで数日寝込んだり、天候などを理由にしばらく外出を控えたりするだけでも筋力は衰えてしまいます。そのようなちょっとしたアクシデントによる筋力低下の予防のためにも、筋力アップを目的とした運動を毎日行って、筋力を蓄えることが大切です。ほんの少しの時間でもいいので、時間を決めて継続して行いましょう。

平成29年度

岩手県認知症介護基礎研修に参加して

認知症と一言でいっても、その症状には様々な違いがあり、高齢者人口の割合が今後さらに増えていく日本の現状を考えると認知症をより正しく理解し対応していけるようになりたいと思いました。

今回初めて聞いた言葉にパーソン・センタード・ケアがありました。それは、その人の生き方や生活に重点を置かかわり方だと学びました。「認知症があるから…」という思いで接するのではなく認知症を1つの病気の症状としてとらえ一般の高齢者と同じように分け隔てなく尊重し、人生の先輩として敬意を持ってかわる姿勢が大切だと思いました。しかし、利用者も職員も人間であり、同じ人は1人もいない中において介護する私たちはどのような姿勢で利用者と向き合っていくたら良いのかを考えると常に冷静に笑顔で的確な声かけや対応をすること、生命を預かっているという責任感を持ちつつ、利用者の体調の変化に気付いたり転倒や徘徊、誤飲等に気を配りつつ利用者本位に立った介護をするということでしょうか。家族と同じようにはいかなかったとしても食事、入浴、排泄、環境整備など利用者の不足な部分を補っていくことなどに取り組んでいくことを考えると介護という仕事は奥が深いと思いました。

職員間のコミュニケーションや関係性を大切にするように心掛けていきたいと思いました。(立川目)

南昌福祉の里 文化祭『笑顔いっぱいの手作り文化祭』

文化祭で会場を彩る飾り作りも利用者と職員が一緒に行ない、利用者が普段から作っていた作品やボランティアの協力をいただきながら作成したフラワーアレンジメントなどを談話室や廊下など色々な場所に飾りました。飾られた風景を見て、「きれいに飾れた」や「なんだか恥ずかしいな」など色々な感想が聞かれました。また、「明日は文化祭か～」と話し、夕方から少し興奮気味で楽しみにして過ごす利用者が多くいました。



当日はご家族も多数来荘され、荘内はご家族や利用者で賑わいました。フラワーアレンジメントをご家族と一緒に見て「おばあちゃんがこれ作ったの？」と驚いたり、「すごく綺麗」や、「バランスよく出来ているね」等盛り上がっていました。表千家の皆さんによるお茶席も用意され、美味しいお抹茶とお茶菓子をいただきました。利用者、ご家族、職員が同席して和気あいあいとゆったりした時間を過ごしていました。利用者は食券を使って自分の食べたい物を選び、中には普段飲めないアルコールを飲んで「毎日飲めたらいいのに」と満面の笑みを浮かべていました。



午後からは、食堂にて三浦わたるさんによる歌謡ショーが開催されました。利用者に馴染み深い名曲をメドレー形式で歌い、力強く握手を交わしていました。利用者も一緒に声を合わせて楽しく歌っていました。全ての曲を歌い終わった後アンコールがあり三浦わたるさんの代表曲を歌い、会場から大きな拍手が響き渡りました。利用者一人一人に感想を聞くと「三浦わたるの歌良かったよ」や、「また来てくれるかな？」と来年も楽しみにしている様子でした。文化祭全体を通して「いい思い出になったよ」や、「家族といっぱい触れ合えたよ」など沢山の声が聞かれました。今年も利用者、職員共に思い出に残る文化祭となり大成功だったと思います。



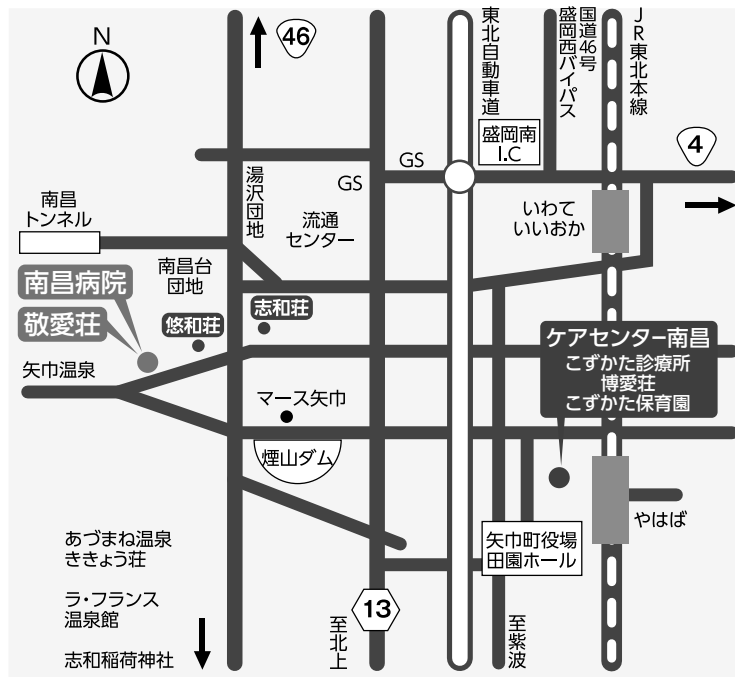
10月～12月の誕生者をお祝いする誕生会に更生保護女性の会の皆さん、初代ミスさんさの佐々木秀子さんとさんさ好み、盛岡チャペルの皆さんが来荘し、美しい歌声や迫力ある踊り等を披露してくれました。誕生会のあと感想を話している利用者が多くみられました。本当にありがとうございます。来年も是非来てください。利用者は毎年本当に楽しみにして待っています。

クリスマス会『サンタさんからの素敵なプレゼント』

12月13日に一般棟でクリスマス会が開催され、職員がサンタさんに扮してプレゼントが配られました。プレゼントは職員が利用者一人一人のイメージや普段使っているものを選んで事前に購入していました。当日は利用者もトナカイの姿で協力してくれました。プレゼントをもらった利用者は「もらっていいの？嬉しい！」と喜んだり、「こんなのもらったよ」と笑顔で職員に見せていました。帽子をもらった利用者が早速かぶってご満悦な表情を浮かべていました。利用者、職員みんな笑顔で外の寒さを忘れるほど心も体も温まる会となりました。



盛岡市エリア



診療時間／ 9：15～17：00

月	神 經 内 科	佐藤 典子
火	内 科	小原 進
水	脳神経外科 循環器内科	山口 一彦 西城 精一
木	脳神経外科	齊木 巖
金	外 科	菅野 干治

診療時間／ 9：00～17：30（火曜日 19：00 まで）

月～金	内 科 三浦 秀悦
月・火(午前)	内 科 足澤 輝夫
木(午前)	内 科 市川 隆
金	神経内科 米澤 久司／高橋 純子

休診日：土曜・日曜・祝日

編集後記

◆今年の干支は、戌（いぬ）年。この「戌」という意味は、「減（ひく）る」を意味する「減」で、草木が枯れる状態を表しているという。不吉な干支と思いきや、実際は「まゐる」「植物が育っていき、花が咲き、実をつけ食べごろが過ぎた後、自分で実を落として、本体の木だけを守る」という意味とのこと。昨年の酉年は「商売繁盛」や採りとして「収穫」などの意味がありましたが、戌年はその後の収穫後の年で、「地盤を守る」という意味も。戌年生まれの正義感が強く、勤勉で努力家とのこと。また、犬はお産が軽いとされることから、お産に吉とされています。

◆新しい年を迎えたばかりですが、来年のことが気になります。来年は、天皇が退位し、皇太子が新天皇に、元号は何になるのか、祝日はどうなるのか、消費税は上がるのか……。今から気にしてもどうなる訳でもないのですが、何故か気になります。今年をうまく乗り切った先に来年があるのですが……。まずは今年1年が良い年でありますように祈!

医療法人社団 帰 厚 堂	■南昌病院	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-5211	FAX 019-697-5215
	■介護老人保健施設 敬愛荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-181	TEL 019-697-3288	FAX 019-697-0641
	■小規模多機能型居宅介護事業所 恒和荘	〒020-0805	盛岡市東新庄1丁目7-23	TEL 019-681-4166	FAX 019-604-1120
	■グループホーム 若園荘	〒020-0886	盛岡市若園町8-11	TEL 019-601-5501	FAX 019-604-1660
	■ケアセンター南昌	〒028-3614	紫波郡矢巾町又兵工新田5-335	TEL 019-698-2015	FAX 019-611-2071
	◆こずかた診療所			TEL 019-698-3033	FAX ◇
	○訪問リハビリテーションこずかた		◇	TEL 019-611-1380	FAX ◇
	◆介護老人保健施設 博愛荘		◇	TEL 019-698-2015	FAX ◇ ※
	◆博愛荘デイケアセンター		◇	TEL 019-697-1526	FAX ◇
	◆デイサービスつむぎ		◇	TEL 019-698-2015	FAX ◇ ※
	◆訪問看護ステーションやはば		◇	TEL 019-698-1388	FAX ◇
	◆ヘルパーステーションやはば		◇	TEL 019-698-1385	FAX ◇
社会福祉法人 敬 愛 会	◆訪問入浴介護やはば		◇	TEL 019-698-1385	FAX ◇
	◆やはば指定居宅支援事業所		◇	TEL 019-697-0537	FAX ◇
	◆ショートのステイやはば		◇	TEL 019-698-2015	FAX ◇ ※
	◆グループホーム 敬寿荘		◇	TEL 019-697-9002	FAX ◇
	▲こずかた保育園		◇	TEL 019-698-3008	FAX 019-611-0221
	▲矢巾町地域包括支援センター		◇	TEL 019-611-2855	FAX 019-611-2937
	●特別養護老人ホーム 志和荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-100	TEL 019-697-6355	FAX 019-697-6356
	●地域密着型介護老人福祉施設 悠和荘	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-698-1661	FAX 019-698-1671
	●敬愛会老人ディサービスセンター	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-514	TEL 019-697-5953	FAX 019-697-7680
	●指定居宅介護支援事業所	〒028-3621	紫波郡矢巾町広宮沢1-2-312	TEL 019-697-0880	FAX 019-698-1671
	●矢巾町地域包括支援センター				
		さわやかハウス相談室	〒028-3615	紫波郡矢巾町南矢幅14-78	TEL 019-697-5570

※ケアセンター南昌代表電話